

大塚・歳勝土遺跡（おおつか・さいかちどいせき）

所在地：神奈川県横浜市都筑区

史跡の概要

大塚遺跡は弥生時代中期に年代づけられる環濠集落。85 軒もの竪穴住居が確認されている。南に近接する歳勝土遺跡では同時期の方形周溝墓 25 基が確認され、集落の墓域を構成していたことが分かっている。昭和 47（1972）年から 4 年かけて港北ニュータウンの整備に伴う発掘調査が行われ、遺跡の状況が明らかになった。遺跡の規模や遺存状態に加え、集落と墓地が一体で確認されたことが評価され、昭和 61（1986）年に国指定史跡に指定された。現在は約 66,000 m²の歴史公園の一部として整備されている（うち遺跡部分は約 33,000 m²）。

沿革

昭和 60（1985）年 3 月 横浜市歴史博物館建設決定
昭和 61（1986）年 1 月 国指定史跡に指定
平成 1（1989）年 3 月 博物館基本計画策定
平成 2（1990）年 3 月 博物館実施設計終了・建築工事開始
平成 7（1995）年 1 月 博物館開館
平成 8（1996）年 3 月 遺跡公園の一部オープン
平成 9（1997）年 3 月 遺跡公園全面オープン



神崎遺跡（かんざきいせき）

所在地：神奈川県綾瀬市

史跡の概要

弥生時代後期の環濠集落。18基の住居址が確認されている。綾瀬市史編纂事業に伴い、平成1（1989）年に発掘調査が行われた。住居の形態や出土土器には東海系の特徴が強く認められ、東海地域西部からの移住によって成立した集落であることが明らかになった。従来から考えられていた、南関東と東海地域の密接な関係を明示する集落が完全な形で遺存していることが評価され、平成23（2011）年、国指定史跡に指定された。現在は史跡指定範囲約9,408㎡を含む遺跡公園として整備されている。

沿革

平成23（2011）年2月 国指定史跡に指定
平成28（2016）年5月 神崎遺跡資料館開館
平成29（2017）年4月 遺跡公園一部オープン
平成30（2018）年4月 遺跡公園全面オープン



埼玉古墳群（さきたまこふんぐん）

所在地：埼玉県行田市

史跡の概要

5世紀末から7世紀初頭にかけて大宮台地の先端に築かれた古墳群。稲荷山古墳など墳長100mを超す前方後円墳・円墳と、その周辺に築かれた中小の円墳からなる。当該時期の古墳群として全国的にも突出した規模を誇り、地域首長層の階層構造や首長墓の展開を継続的に観察できる点に特徴がある。稲荷山古墳出土の金錯銘鉄剣と副葬品は、国宝に指定されている。史跡自体の重要性に加えて、調査・整備・活用に関する取り組みを長期にわたり実施し、成果を挙げてきた点も高く評価されている。現在の史跡指定範囲は約265,340㎡。

沿革

昭和13（1938）年8月 国指定史跡に指定

昭和27（1947）年 瓦塚、鉄砲山、将軍山古墳以外の墳丘を公有化

昭和32（1957）年7月 名称変更（埼玉村古墳群→埼玉古墳群）

昭和41（1966）年 「さきたま風土記の丘」として整備開始。将軍山古墳以外の墳丘を公有化

昭和44（1969）年10月 さきたま資料館（現・県立さきたま史跡の博物館）開館

平成1（1989）年9月 追加指定（墳丘周辺の周濠等）

平成9（1997）年 将軍山古墳展示館開館

平成25（2013）年10月 追加指定（公園用地拡張に伴う指定範囲の拡大）

平成30（2018）年10月 追加指定（確認調査に伴う遺構範囲の拡大）

令和2（2020）年3月 特別史跡に指定



吉野ヶ里遺跡（よしのがりいせき）

所在地：佐賀県神埼市・吉野ヶ里町

史跡の概要

弥生時代全期の活動を示す大規模集落。昭和 50～60 年代に周辺地域の開発に伴う発掘調査が断続的に実施されて地域の歴史的重要性が認識され、昭和 61（1986）年から当該遺跡の本格的な調査が実施された。その結果、南北約 1 km、東西約 600m、面積にして約 400,000 m²におよぶ集落と、集落と一体的に変遷する墓地の存在が明らかとなった。極めて高い学術的価値と他に例をみない豊富な情報を有する遺跡として、平成 2（1990）年に国史跡、平成 3 年に特別史跡に指定された。現在は面積約 1,170,000 m²（うち史跡指定範囲は約 500,000 m²）の歴史公園として整備されている。

沿革

- 平成 2（1990）年 5 月 国指定史跡に指定
- 平成 3（1991）年 5 月 特別史跡に指定
- 平成 4（1992）年 歴史公園整備が閣議決定
- 平成 5（1993）年 5 月 都市公園としての基本計画策定
- 平成 7（1995）年 11 月 公園整備着手
- 平成 11（1999）年 7 月 追加指定（地権者の同意に基づく指定範囲の拡大）
- 平成 13（2001）年 4 月 歴史公園一部開園
- 平成 29（2017）年 7 月 歴史公園全面開園



安満遺跡（あまいせき）

所在地：大阪府高槻市

史跡の概要

弥生時代を通じた変遷を示す大規模集落と水田、墓域が一体をなす遺跡。昭和 3 年、京都大学農学部摂津農場が開設された際に発見された。弥生時代の遺物が多量に出土し、九州北部から畿内への弥生文化の流入が明示された遺跡として学史上重要。昭和 41（1966）年からこれまで 50 次に及ぶ発掘調査が実施され、居住域（大規模な環濠集落）、生産域（水田）、墓域が確認された。これら 3 つの区域の有機的な関係を、時期的変遷と共に明確にたどることができる点が評価され、平成 5（1993）年に国指定史跡に指定された。平成 30（2018）年より総面積約 209,000 m²（うち史跡指定範囲は約 128,000 m²）の遺跡公園としての整備が始まり、令和 3 年の全面開園が予定されている。

沿革

平成 5（1993）年 11 月 国指定史跡に指定

平成 23（2011）年 2 月 追加指定（確認調査に伴う指定範囲の拡大）

平成 26（2014）年 3 月 公園整備基本構想の策定

平成 30（2018）年 遺跡公園整備着手（令和 3 年に全面開園予定）



池上・曽根遺跡（いけがみ・そねいせき）

所在地：大阪府和泉市・泉大津市

史跡の概要

弥生時代中期を頂点とする活動を示す大規模環濠集落。この時期の集落は付近の川から引水した、東西 300m、南北 400m の環濠集落となっていた。多様な遺物が出土し、それらは水稻農耕や狩猟・漁猟といった食糧獲得活動から信仰まで、当該期の幅広い人間活動を伝える貴重な資料となっている。弥生文化を考える上で重要な情報を提供していることが評価され、昭和 51（1976）年に国指定史跡に指定された。史跡指定範囲は約 115,000 m²で、その一部（35,000 m²）が史跡公園（第一期）として整備されている。

沿革

昭和 51（1976）年 4 月 国指定史跡に指定

昭和 53（1978）年 11 月 追加指定

平成 5（1993）年 2 月 追加指定

平成 7（1995）年 文化庁「古代ロマン再生事業」採択。確認調査の実施

平成 11（1999）年 大型掘立柱建物、大井戸の復元

平成 13（2001）年 5 月 史跡公園開園（第一期）



唐子・鍵遺跡（からこ・かぎいせき）

所在地：奈良県磯城郡

史跡の概要

弥生時代中期を頂点とする活動を示す多重環濠集落。昭和 12（1936）年の発掘調査によって農耕具をはじめとする豊富な木製品が出土し、また出土土器から近畿地方の弥生土器編年の基準が作られた。1977 年以降の調査で環濠の存在が順次明らかになり、多重環濠がめぐる我が国有数の大規模集落跡であることが判明した。弥生時代研究の基礎を作った学史上の位置、地方の拠点的な規模である多重環濠集落であること、当時の生活状態を伝える木製品をはじめとする多種多様な遺物が出土していることなどから、平成 11（1999）年に国指定史跡に指定された。現在は 107,798 m²の史跡公園として整備されている（うち史跡指定範囲は 103,282 m²）。

沿革

平成 11 (1999) 年 1 月 国指定史跡に指定

平成 14 (2002) 年 12 月 追加指定 (大型建物跡)

平成 20 (2008) 年 3 月 追加指定

平成 22 (2010) 年 8 月 追加指定

